

現行	改訂案															
<p>【使用上の注意】</p> <p>3.相互作用</p> <p>(2)[併用注意](併用に注意すること)</p> <table border="1" data-bbox="206 317 1084 440"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三環系抗うつ薬 (以下、略)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	三環系抗うつ薬 (以下、略)			<p>【使用上の注意】</p> <p>3.相互作用</p> <p>(2)[併用注意](併用に注意すること)</p> <table border="1" data-bbox="1193 317 2072 588"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハロゲン含有吸入麻酔薬 ハロタン^{注1)}、イソフルラン^{注2)}、セボフルラン^{注3)}</td> <td>頻脈、不整脈、場合によっては心停止を起こすことがある。</td> <td>これらの薬剤は、心筋のアドレナリン受容体の感受性を亢進させる。</td> </tr> <tr> <td>三環系抗うつ薬 (以下、現行通り)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注1) ハロタン麻酔中のヒトの 50%に心室性期外収縮を誘発するアドレナリン量(粘膜下投与)は 2.1 μg/kg と報告されている¹⁾。 この量は 60kg のヒトの場合、キシロカイン注射液 0.5%、1% (10 万倍希釈アドレナリン含有) 12.5mL に相当し、キシロカイン注射液 2% (8 万倍希釈アドレナリン含有) 10mL に相当する。</p> <p>注2) イソフルラン麻酔中のヒトの 50%に心室性期外収縮を誘発するアドレナリン量(粘膜下投与)は 6.7 μg/kg と報告されている¹⁾。 この量は 60kg のヒトの場合、キシロカイン注射液 0.5%、1% (10 万倍希釈アドレナリン含有) 40mL に相当し、キシロカイン注射液 2% (8 万倍希釈アドレナリン含有) 32mL に相当する。</p> <p>注3) セボフルラン麻酔中、5 μg/kg 未満のアドレナリンを粘膜下に投与しても 3 回以上持続する心室性期外収縮は誘発されなかったが、5 μg/kg～14.9 μg/kg のアドレナリンを投与した場合、1/3 の症例に 3 回以上持続する心室性期外収縮が誘発された²⁾。 アドレナリン 5 μg/kg は 60kg のヒトの場合、キシロカイン注射液 0.5%、1% (10 万倍希釈アドレナリン含有) 30mL に相当し、キシロカイン注射液 2% (8 万倍希釈アドレナリン含有) 24mL に相当する。</p>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	ハロゲン含有吸入麻酔薬 ハロタン ^{注1)} 、イソフルラン ^{注2)} 、セボフルラン ^{注3)}	頻脈、不整脈、場合によっては心停止を起こすことがある。	これらの薬剤は、心筋のアドレナリン受容体の感受性を亢進させる。	三環系抗うつ薬 (以下、現行通り)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子														
三環系抗うつ薬 (以下、略)																
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子														
ハロゲン含有吸入麻酔薬 ハロタン ^{注1)} 、イソフルラン ^{注2)} 、セボフルラン ^{注3)}	頻脈、不整脈、場合によっては心停止を起こすことがある。	これらの薬剤は、心筋のアドレナリン受容体の感受性を亢進させる。														
三環系抗うつ薬 (以下、現行通り)																
<p>【主要文献】</p> <p>1) Mather, L.E., et al.: Br. J. Anaesth., 48, 989, 1976 (以下、略)</p>	<p>【主要文献】</p> <p>1) Johnston, R.R., et al.: Anesth. Analg., 55(5), 709, 1976 2) Navarro, R., et al.: Anesthesiology, 80, 545, 1994 3) Mather, L.E., et al.: Br. J. Anaesth., 48, 989, 1976 (以下、現行通り)</p>															

【改訂案】

ボスミン新旧対比表 (..... ; 削除 ・ ; 追記)

ボスミン液

現 行	改訂案
<p style="text-align: center;">【禁忌(次の患者には投与しないこと)】</p> <p>1. 次の薬剤を投与中の患者(「相互作用」の項参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬</u> 2) ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬、α遮断薬 3) イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤、アドレナリン作動薬 (ただし、緊急時はこの限りでない。) <p>2. 狭隔角や前房が浅いなど眼圧上昇の素因のある患者 (略)</p>	<p style="text-align: center;">【禁忌(次の患者には投与しないこと)】</p> <p>1. 次の薬剤を投与中の患者(「相互作用」の項参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬、α遮断薬 2) イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤、アドレナリン作動薬 (ただし、緊急時はこの限りでない。) <p>2. (現行通り)</p>

ボスミン注

現 行	改訂案
<p style="text-align: center;">【禁忌(次の患者には投与しないこと)】</p> <p>1. 次の薬剤を投与中の患者(「相互作用」の項参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬</u> 2) ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬、α遮断薬 3) イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤、アドレナリン作動薬 (ただし、蘇生等の緊急時はこの限りでない。) <p>2. 狭隔角や前房が浅いなど眼圧上昇の素因のある患者 (略)</p>	<p style="text-align: center;">【禁忌(次の患者には投与しないこと)】</p> <p>1. 次の薬剤を投与中の患者(「相互作用」の項参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬、α遮断薬 2) イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤、アドレナリン作動薬 (ただし、蘇生等の緊急時はこの限りでない。) <p>2. (現行通り)</p>

ボスミン液

現 行	改訂案
<p style="text-align: center;">【使用上の注意】</p> <p>1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 1) ~ 2) (略)</p> <p>3) 肺気腫のある患者 (以下略)</p>	<p style="text-align: center;">【使用上の注意】</p> <p>1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 1) ~ 2) (現行通り)</p> <p>3) <u>ハロタン等のハロゲン吸入麻酔薬を投与中の患者</u> <u>[併用により心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられており、頻脈、心室細動等の発現の危険性が増大するおそれがある。] (「相互作用」の項参照)</u></p> <p>4) 肺気腫のある患者 (以下、現行通り)</p>

ボスミン注

現 行	改訂案
<p style="text-align: center;">【使用上の注意】</p> <p>1. 慎重投与(次の冠者には慎重に投与すること) 1) 高血圧の患者 (以下略)</p>	<p style="text-align: center;">【使用上の注意】</p> <p>1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) 1) <u>ハロタン等のハロゲン吸入麻酔薬を投与中の患者</u> <u>[併用により心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられており、頻脈、心室細動等の発現の危険性が増大するおそれがある。] (「相互作用」の項参照)</u></p> <p>2) 高血圧の患者 (以下、現行通り)</p>

現 行	改訂案																	
【使用上の注意】	【使用上の注意】																	
3. 相互作用	3. 相互作用																	
1) 併用禁忌(併用しないこと)	1) 併用禁忌(併用しないこと)																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">薬剤名等</th> <th style="width: 30%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 40%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬</td> <td>頻脈、心室細動発現の危険性が増大する。</td> <td>これらの薬剤により、心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている。</td> </tr> <tr> <td>抗精神病薬 (略)</td> <td>(略)</td> <td>(略)</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬	頻脈、心室細動発現の危険性が増大する。	これらの薬剤により、心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている。	抗精神病薬 (略)	(略)	(略)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">薬剤名等</th> <th style="width: 30%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 40%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>抗精神病薬 (現行通り)</td> <td>(現行通り)</td> <td>(現行通り)</td> </tr> </tbody> </table>			薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	抗精神病薬 (現行通り)	(現行通り)	(現行通り)
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																
ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬	頻脈、心室細動発現の危険性が増大する。	これらの薬剤により、心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている。																
抗精神病薬 (略)	(略)	(略)																
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																
抗精神病薬 (現行通り)	(現行通り)	(現行通り)																
2) 併用注意(併用に注意すること)	2) 併用注意(併用に注意すること)																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">薬剤名等</th> <th style="width: 30%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 40%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>モノアミン酸化酵素阻害薬 (以下、略)</td> <td>(略)</td> <td>(略)</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	モノアミン酸化酵素阻害薬 (以下、略)	(略)	(略)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">薬剤名等</th> <th style="width: 30%;">臨床症状・措置方法</th> <th style="width: 40%;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハロゲン含有吸入麻酔薬 ハロタン^{注1)}、インフルラン^{注2)}、セボフルラン^{注3)}</td> <td>頻脈、心室細動発現の危険性が増大する。</td> <td>これらの薬剤により、心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている。</td> </tr> <tr> <td>モノアミン酸化酵素阻害薬 (以下、現行通り)</td> <td>(現行通り)</td> <td>(現行通り)</td> </tr> </tbody> </table>			薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	ハロゲン含有吸入麻酔薬 ハロタン ^{注1)} 、インフルラン ^{注2)} 、セボフルラン ^{注3)}	頻脈、心室細動発現の危険性が増大する。	これらの薬剤により、心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている。	モノアミン酸化酵素阻害薬 (以下、現行通り)	(現行通り)	(現行通り)
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																
モノアミン酸化酵素阻害薬 (以下、略)	(略)	(略)																
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																
ハロゲン含有吸入麻酔薬 ハロタン ^{注1)} 、インフルラン ^{注2)} 、セボフルラン ^{注3)}	頻脈、心室細動発現の危険性が増大する。	これらの薬剤により、心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている。																
モノアミン酸化酵素阻害薬 (以下、現行通り)	(現行通り)	(現行通り)																
	<p>注 1) ハロタン麻酔中のヒトの 50%に心室性期外収縮を誘発するアドレナリン量(粘膜下投与)は 2.1 μg/kg と報告されている¹⁾。この量は 60kg のヒトの場合、20 万倍希釈アドレナリン含有溶液 25mL に相当する。</p> <p>注 2) インフルラン麻酔中のヒトの 50%に心室性期外収縮を誘発するアドレナリン量(粘膜下投与)は 6.7 μg/kg と報告されている¹⁾。この量は 60kg のヒトの場合、20 万倍希釈アドレナリン含有溶液 80mL に相当する。</p> <p>注 3) セボフルラン麻酔中、5 μg/kg 未満のアドレナリンを粘膜下に投与しても3回以上持続する心室性期外収縮は誘発されなかったが、5 μg/kg～14.9 μg/kg のアドレナリンを投与した場合、1/3 の症例に3回以上持続する心室性期外収縮が誘発された²⁾。 アドレナリン 5 μg/kg は、60kg のヒトの場合、20 万倍希釈アドレナリン含有溶液 60mL に相当する。</p>																	

ボスミン液 ・ ボスミン注

現 行	改訂案
<p style="text-align: center;">【主要文献】</p> <p>1) 島本ら : 薬理学(医学書院) 340 (1964) 2) 高木ら : 薬物学(南山堂) 118 (1967)</p>	<p style="text-align: center;">【主要文献】</p> <p>1) <u>Johnston, R.R., et al. : Anesth. Analg., 55(5), 709 (1976)</u> 2) <u>Navarro, R., et al. : Anesthesiology, 80, 545 (1994)</u> 3) 島本ら : 薬理学(医学書院) 340 (1964) 4) 高木ら : 薬物学(南山堂) 118 (1967)</p>

..... ; 削除 ・ _____ ; 追記

以 上

【新旧対照表】 アドレナリン注射液（販売名：アドレナリン注0.1%シリンジ〔テルモ〕）

（； 削除 ・； 追記 ）

◆ 【禁忌】の項

現 行	改訂案
<p>【禁忌】（次の患者には投与しないこと）</p> <p>(1) 次の薬剤を投与中の患者（「併用禁忌」の項参照）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬</u> 2) ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬，α遮断薬 3) イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤，アドレナリン作動薬 （ただし，蘇生等の緊急時はこの限りでない。） <p>(2) 狭隅角や前房が浅いなど眼圧上昇の素因のある患者 （ 略 ）</p>	<p>【禁忌】（次の患者には投与しないこと）</p> <p>(1) 次の薬剤を投与中の患者（3.「相互作用」の項参照）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬，α遮断薬 2) イソプロテレノール等のカテコールアミン製剤，アドレナリン作動薬 （ただし，蘇生等の緊急時はこの限りでない。） <p>(2) （ 現行通り ）</p>

◆ 【使用上の注意】の項

現 行	改訂案
<p>【使用上の注意】</p> <p>1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）</p> <p>(1) 高血圧の患者 [本剤の血管収縮作用により，急激な血圧上昇があらわれるおそれがある.]</p> <p>(2)～(5) 略</p>	<p>【使用上の注意】</p> <p>1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）</p> <p>(1) ハロタン等のハロゲン吸入麻酔薬を投与中の患者 [併用により心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられており，頻脈，心室細動等の発現の危険性が増大するおそれがある.]（「相互作用」の項参照）</p> <p>(2) 高血圧の患者 [本剤の血管収縮作用により，急激な血圧上昇があらわれるおそれがある.]</p> <p>(3)～(6)（以下、現行通り（番号繰り下げ））</p>

現 行	改訂案															
<p>【使用上の注意】</p> <p>3. 相互作用</p> <p>(1) 併用禁忌（併用しないこと）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">薬剤名等</th> <th style="text-align: center;">臨床症状・措置方法</th> <th style="text-align: center;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬</td> <td>頻脈，心室細動発現の危険性が増大する...</td> <td>これらの薬剤により心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている...</td> </tr> <tr> <td>抗精神病薬 (略)</td> <td style="text-align: center;">(略)</td> <td style="text-align: center;">(略)</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬	頻脈，心室細動発現の危険性が増大する...	これらの薬剤により心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている...	抗精神病薬 (略)	(略)	(略)	<p>【使用上の注意】</p> <p>3. 相互作用</p> <p>(1) 併用禁忌（併用しないこと）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">薬剤名等</th> <th style="text-align: center;">臨床症状・措置方法</th> <th style="text-align: center;">機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>抗精神病薬 (現行通り)</td> <td style="text-align: center;">(現行通り)</td> <td style="text-align: center;">(現行通り)</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	抗精神病薬 (現行通り)	(現行通り)	(現行通り)
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子														
ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬	頻脈，心室細動発現の危険性が増大する...	これらの薬剤により心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている...														
抗精神病薬 (略)	(略)	(略)														
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子														
抗精神病薬 (現行通り)	(現行通り)	(現行通り)														

現 行			改訂案		
(2) 併用注意（併用に注意すること）			(2) 併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
モノアミン酸化酵素阻害薬	(略)	(略)	ハロゲン含有吸入麻酔薬 ハロタン ^{注1)} , イソフルラン ^{注2)} , セボフルラン ^{注3)}	頻脈、心室細動発現の危険性が増大する。	これらの薬剤により、心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている。
(以下、略)			モノアミン酸化酵素阻害薬	(現行通り)	(現行通り)
			(以下、現行通り)		
			<p>注1) ハロタン麻酔中のヒトの50%に心室性期外収縮を誘発するアドレナリン量（粘膜下投与）は2.1μg/kgと報告されている¹⁾。この量は60kgのヒトの場合、20万倍希釈アドレナリン含有溶液25mLに相当する。</p> <p>注2) イソフルラン麻酔中のヒトの50%に心室性期外収縮を誘発するアドレナリン量（粘膜下投与）は6.7μg/kgと報告されている¹⁾。この量は60kgのヒトの場合、20万倍希釈アドレナリン含有溶液80mLに相当する。</p> <p>注3) セボフルラン麻酔中、5μg/kg未満のアドレナリンを粘膜下に投与しても3回以上持続する心室性期外収縮は誘発されなかったが、5μg/kg～14.9μg/kgのアドレナリンを投与した場合、1/3の症例に3回以上持続する心室性期外収縮が誘発された²⁾。 アドレナリン5μg/kgは、60kgのヒトの場合、20万倍希釈アドレナリン含有溶液60mLに相当する。</p>		

◆【主要文献】の項

現 行	改訂案
<p>【主要文献】</p> <p>1) テルモ株式会社：PF-01ADの安定性試験(社内資料)</p>	<p>【主要文献】</p> <p>1) Johnston R.R. et al. : Anesth. Analg. 1976; 55(5) : 709.</p> <p>2) Navarro R. et al. : Anesthesiology. 1994; 80 : 545.</p> <p>3) テルモ株式会社：PF-01ADの安定性試験(社内資料)</p>

以 上

【改訂案】

エピペン新旧対比表 (..... ; 削除 ・ ; 追記)

現 行	改 訂 案															
<p style="text-align: center;">【禁忌(次の患者には投与しないこと)】</p> <p>次の薬剤を投与中の患者(「併用禁忌」の項参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬</u> 2. <u>ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬、α遮断薬</u> 	<p style="text-align: center;">【禁忌(次の患者には投与しないこと)】</p> <p>次の薬剤を投与中の患者(「併用禁忌」の項参照)</p> <p>ブチロフェノン系・フェノチアジン系等の抗精神病薬、α遮断薬</p>															
<p style="text-align: center;">【使用上の注意】</p> <p>1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高血圧の患者 (以下略) 	<p style="text-align: center;">【使用上の注意】</p> <p>1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>ハロタン等のハロゲン吸入麻酔薬を投与中の患者〔併用により心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられており、頻脈、心室細動等の発現の危険性が増大するおそれがある。〕(「相互作用」の項参照)</u> 2) 高血圧の患者 (以下、現行通り) 															
<p style="text-align: center;">【使用上の注意】</p> <p>3. 相互作用</p> <p>1) 併用禁忌(併用しないこと)</p> <table border="1" data-bbox="203 839 1081 1149"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><u>ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬</u></td> <td><u>頻脈、心室細動発現の危険性が増大する。</u></td> <td><u>これらの薬剤により、心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている。</u></td> </tr> <tr> <td>抗精神病薬 (略)</td> <td>(略)</td> <td>(略)</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	<u>ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬</u>	<u>頻脈、心室細動発現の危険性が増大する。</u>	<u>これらの薬剤により、心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている。</u>	抗精神病薬 (略)	(略)	(略)	<p style="text-align: center;">【使用上の注意】</p> <p>3. 相互作用</p> <p>1) 併用禁忌(併用しないこと)</p> <table border="1" data-bbox="1193 839 2072 1002"> <thead> <tr> <th>薬剤名等</th> <th>臨床症状・措置方法</th> <th>機序・危険因子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>抗精神病薬 (現行通り)</td> <td>(現行通り)</td> <td>(現行通り)</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	抗精神病薬 (現行通り)	(現行通り)	(現行通り)
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子														
<u>ハロタン等のハロゲン含有吸入麻酔薬</u>	<u>頻脈、心室細動発現の危険性が増大する。</u>	<u>これらの薬剤により、心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている。</u>														
抗精神病薬 (略)	(略)	(略)														
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子														
抗精神病薬 (現行通り)	(現行通り)	(現行通り)														

現 行			改訂案		
2) 併用注意(併用に注意すること)			2) 併用注意(併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
モノアミン酸化酵素阻害薬	(略)	(略)	ハロゲン含有吸入麻酔薬 ハロタン ^{注 1)} 、イソフルラン ^{注 2)} 、セボフルラン ^{注 3)}	頻脈、心室細動発現の危険性が増大する。	これらの薬剤により、心筋のカテコールアミン感受性が亢進すると考えられている。
(以下、略)			モノアミン酸化酵素阻害薬	(現行通り)	(現行通り)
			(以下、現行通り)		
			<p>注 1) ハロタン麻酔中のヒトの 50%に心室性期外収縮を誘発するアドレナリン量(粘膜下投与)は 2.1 μg/kg と報告されている¹⁾。 この量は 60kg のヒトの場合、エピペン注射液 0.3mg(20 万倍希釈アドレナリン含有溶液)25mL に相当し、エピペン注射液 0.15mg(40 万倍希釈アドレナリン含有溶液)50mL に相当する。</p> <p>注 2) イソフルラン麻酔中のヒトの 50%に心室性期外収縮を誘発するアドレナリン量(粘膜下投与)は 6.7 μg/kg と報告されている¹⁾。 この量は 60kg のヒトの場合、エピペン注射液 0.3mg(20 万倍希釈アドレナリン含有溶液)80mL に相当し、エピペン注射液 0.15mg(40 万倍希釈アドレナリン含有溶液)160mL に相当する。</p> <p>注 3) セボフルラン麻酔中、5 μg/kg 未満のアドレナリンを粘膜下に投与しても 3 回以上持続する心室性期外収縮は誘発されなかったが、5 μg/kg ~ 14.9 μg/kg のアドレナリンを投与した場合、1/3 の症例に 3 回以上持続する心室性期外収縮が誘発された²⁾。 アドレナリン 5 μg/kg は、60kg のヒトの場合、エピペン注射液 0.3mg(20 万倍希釈アドレナリン含有溶液)60mL に相当し、エピペン注射液 0.15mg(40 万倍希釈アドレナリン含有溶液)120mL に相当する。</p>		
【主要文献】			【主要文献】		
1) 薬理学(医学書院), 340, (1964) 2) 薬物学(南山堂), 118, (1967) 3) グッドマン・ギルマン薬理書・第 9 版(廣川書店), 268, 1999			1) Johnston, R.R., et al.:Anesth. Analg., 55(5), 709 (1976) 2) Navarro, R., et al.:Anesthesiology, 80, 545 (1994) 3) 薬理学(医学書院), 340, (1964) 4) 薬物学(南山堂), 118, (1967) 5) グッドマン・ギルマン薬理書・第 9 版(廣川書店), 268, 1999		

..... ; 削除 ・ ; 追記
以上